

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373001128		
法人名	医療法人 豊成会		
事業所名	どんぐりの家		
所在地	愛知県豊田市青木町5-88		
自己評価作成日	平成26年10月18日	評価結果市町村受理日	平成26年12月 4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/23/index.php?action=kouhvu_detail_2014_022_kani=true&JkyosyoCd=2373001128-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
聞き取り調査日	平成26年10月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人の尊厳を大切に、長期入居の方、新しく入居された方と、身体状況に違いがあるものの、その一人一人に合わせた支援をととても大切にしていること。その向こう側には、一人一人の方の支援を皆で話し合い、意見し合い、職員同士がいつも協力し、お互いを助け合って働いている事だと思えます。人の絆を大切にしていくなかで、地域の方々とのつながりも深くなっており、支援の輪が一年ごとに増えています。どんなに重度化されても、入居者さんとのコミュニケーションは保たれています。人と人との強いつながりと、バリテーションをはじめとするスタッフのコミュニケーションが強みのホームです。さらに、今年度より取り入れた同法人のDrによる定期的な訪問診療により、入居者の方々がより健康的な生活を送れていることも強みだと考えます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ふれあい、ぬくもり、なごみの理念どおり、各種ボランティアさんや地域の方々のお力添えを一杯いただき、職員と共に入居者さんも人のぬくもりを肌で感じる時間がたくさん持てました。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者さんの入れ代わりもあり、開所時のように地域へ出かけられる方も増えてきています。事業所のすぐ近くのボランティアさんで、毎日通って下さっている方のお力添えは、ますます大きくなってホーム全体で助けられています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	話し合いや運営推進会議での入居者の皆さんの生の姿を見ていただいたり、地域行事でも生の姿を見ていただき、支援をいただいている中で、理解の方向へと向かっているようです。認知症の勉強会にも講師をやらせていただいたりしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では各参加者の方々から様々な意見、質問がでています。又、更なる支援の声もたくさんいただけて、それらを実際に取り入れるようにしていく中で、サービス向上につながっています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今年度は、市の関係の認知症の勉強会にも講師を勤めさせていただきました。市町村との相互の協力関係の中で、認知症の方が住みやすい地域になっていただけたらと思います。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ全員が充分理解できている。この数年は玄関の施錠なく過ごせていたが、新しく入居された方の関係もあり、場所的に車に対する危険性も高く、玄関の施錠はやむを得ない時の最小限にとどめている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ一同が寄り添うケアの重要性を理解している。虐待の意味の無さ、逆効果をスタッフ全員充分理解しており、虐待などは一切行なわれていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が研修で学んだ事を勉強会で報告。皆で学ぶ機会を設けた。ホーム内には、すでに制度を取り込んでいる利用者さんもおられ、そこでも学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	機会をきちんととらえ、疑問点、不安に対することにはその都度きちんと答えています。又、改定時にもきちんと話し合える仕組みとなっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項等については、家族会等で直接話し合いを行ったり、ご本人の思いは職員全員が把握できるようになっています。それらをご家族とも話し合い、支援に生かしています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	自己評価でほぼ全員のスタッフが意見、提案を聞いてもらっていると解答あり。法人の事務長も職員会議に毎回参加しており、提案についてはいつも前向きに検討してくれており、法人代表につなげてくれています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は事務長と共に、職員がより働きやすい環境でいられるように、職場の環境・条件整備ができるよう、定期的な話し合いを持ってきています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は常に職員をねぎらってくれています。そのような環境にあって職員も学ぶ意欲、仕事への姿勢がさらにアップしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	この点は代表者は管理者に一任。管理者が自ら学ぶ勉強を通じ、同業者とは定期的な交流があります。現在も月に1回、2名の方がホームに勉強のため訪問下さっています。その他にも他のグループホームと運動会も実施。又、外部からの勉強のための訪問も受け入れています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	一番不安なこの時期、家族からの情報も大切に、その時々本人の身体、精神的状況を見逃さないように、細かな視点にスタッフ全員が立っている。それらが申し送りに生かされ日々の支援へとつなげています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と本人のこれまで築いてきた関係性は様々。それまでの家族の思いを知ること、現在の思い、これからの不安に対して対応をしています。入居後も、起きてくる細かい点での連携を常にとっています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が安心して生活していくには、本当に細やかな支援がとても重要だと思います。そのためには今、その人に必要である他のサービスもご家族と協力しあいながら取り込んでいます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設の利用者と職員という立場だけでなく、共に暮らす場と考え、本人ができることは時間がかかってもスタッフと一緒にいることができるような支援をしています。人格を第一にコミュニケーションを大切にしながら日々入居者さんに向き合っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人が一番大切な家族。現状を家族に伝えること。そこから家族も本人の“今”をしっかりとキャッチして下さり、協力が大きいです。家族会などでは、ご家族からも前向きアドバイスもいただいています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度入居されたお二人の方には、随分長いこと会っていなかった兄弟や友達の方々が訪問下さったり、手紙や電話もいただいています。男性入居者さんの兄弟の方の毎月の来訪もあり、関わりは途切れることなく増えています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者さんの入れ代わりもあり、又、新しい空気が感じられます。週1回行なうグループバリエーションでは、個人の身体重量化に伴い参加出来なくなった方もいますが、この方々には別の機会に関り合いを大切にしています。継続した参加メンバーからはスタッフを含め“皆仲間”という意識は変わらず、安気に生活されており、その安心した心の力は大きいです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居され9年経つ方のご家族の毎月の定期ボランティア、6年経つ方の毎年の果物のご支援、他にも今年度2名の方からの相談等をいただき、それに従っています。このように継続した関係を大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望を言える方からは聞きとり、重度化した方については、それまでのご本人の様子から本人本位に検討し、ご家族とも相談しながら日々の生活につなげています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートを変更したことで、これらがより分かりやすくなりました。これを生活の中に取り込み、現状と照らし合わせ、今の生活につなげています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間の申し送りがしっかりとされており、職員会議も毎回全員参加している。スタッフの入れ代わりもほとんどなく、状況把握が出来やすい環境にある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その人の今をしっかりとらえ、本人はもとより、各関係者との話し合いがなされている。様々な意見を重視し、現状に即した介護計画につながっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	常にスタッフがカルテに細かく記載している。特に重要な点は、申し送りノートにも記載し、スタッフ全員で情報を共有している。そんな中から、次への展開につなげていけています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者さんそれぞれの要望に合わせ、できないと決め付けることなく、要望にそったサービスが行なえるようスタッフが模索する姿勢ができています。ご家族の思いにも耳を傾け、それを次につなげる努力もしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームはとてもよい環境にあり、地域活動へは全員参加できる機会も多々あります。それらの資源をその方の心身の状況に合った形で活用させていただきながら生活しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今年度より、家族の方とも話し合い、法人のDrの訪問診療を取り入れるようになりました。結果、ホーム内での受診が可能となり、入居者さんへの負担も減り、家族共に、安心、安楽な支援の実践ができています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	今年度より訪問看護も取り入れています。看護師へは個々の方の細かい変化も伝達できおり、良い関係のもと、入居者さんへの支援につながられています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時については、常に病院関係者、家族との連携を欠かすことはありません。関係者の方々とその時々に必要な話し合いを密に取り合う支援ができています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状、重度化してきている。医療面では関係者間で細かく話し合い、助言をいただいたり、家族にも細かい連絡を取って支援させていただいています。訪問診療のDrと家族が直接話し合える機会もあります。それら皆の力が合わせられ、今も重度化された方でも、再び活力がでてきています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命法を事業所内でほぼ毎年実施しています。今年度は家族会(過去を含め2回目)で取り込み、参加者全員が真剣に勉強することができました。定期的な訓練で職員もレベルアップしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災の日を月に1回設け、訓練等を定期的に行っています。地域の方も参加して下さることもあります。今年度も地域の方に参加いただいたり、さらに法人の防火管理者も毎回参加出来るようになり、それぞれより良きアドバイスもいただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ全員が理念である「人格尊重」の重要性を理解しており、何よりもご本人、そしてその時々 の思いを大切にされた対応(その時の心を重視する こと)を心掛けています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	重度化された方は、ご本人の表情から思いや希 望を読み取り、軽度の方はその言動から思いを 読み取り、全スタッフが支援につなげています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	時々業務に追われて職員の都合になることもあ りますが、全スタッフが入居者さんの個々のペー スを把握しており、そのペースを大切にすること を基本とした支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	毎日パシッとおしゃれにというには行き届かない ですが、思いを伝えられる方は、そのことを尊重 し、言えない方には、過去のその人らしさで支援 させていただいています。毎日お化粧をされる方 も入居されました。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている	準備と片付けはずっと行なえています。その他に も、週1回のごはん作りの日には、3名のボラン ティアさんが、スタッフと共に利用者さんの能力に あった役割をしっかりとこなされています。今年度 も皆さんの能力低下もなく、生き生きとやって下 さっています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	食事摂取量は全て把握できており、その方の現 状も職員間で連携がしっかりととれています。さ らに医師の細かな体調管理も加わり、スタッフの 入れ代わりもないことで、スキルアップしていっ ています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	歯科往診は必要に応じてその時々 の歯科往診を受け、医師から助言のもと、個に合 った支援の実践へとつなげています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツの方でも、ご本人の訴えがある時には、スタッフ2名でのトイレ誘導をしています。又、その人に合わせ日中は綿パンツ、夜のみ紙パンツにするなど、全ての人に個々の状況にあった支援をしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘での悪影響は職員の理解はできています。個々の方の残存能力に合わせた予防の支援にスタッフ全員で常に話し合い便秘予防の実践に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	全員がバランス良く入浴できるように、入浴日や時間は決められているが、順番はできる限り希望を取り入れています。又、入浴時に強い拒否が見られる時には、間を空けての入浴の声かけ、別日にする、発汗の多き方への随時対応の入浴の取り入れなどの対応をしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活のリズムを乱さないように支援。又、その日の体調を全職員がしっかりと把握。個のパターンを知っていることも含め、充分できています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬による症状の変化については、全職員での話し合いが多いので把握できています。理解については、新しく入った職員はまだ不十分です。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所の長期化に伴い、残存能力の差は大きいものの、入居者さんの好きなものなどを理解し、細かい個の支援を大切にしている。その結果、全ての利用者さんがコミュニケーションがとれ、コミュニケーションのレベルは今年度もアップしています。重度化された方にも、人と人をつなぐ絆を大切にしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その方の能力にあった散歩やドライブ、買い物などの支援を行なっている。行事など多人数のスタッフを必要とする時は、家族や地域のボランティアさんなどに協力をいただき、寄り添うケアに努めています。ご家族やボランティアさんの協力はこの一年でさらに増し、結果、興味のある方は地域でのオペラも見学できました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を管理できる方がいない為、全て事務所預かりとなっていますが、入居者さんが何か欲しい等の訴えがあった時には、スタッフ付き添いの下、使用できるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家に電話したいとの訴えあれば、スタッフ支援の下かけています。新しい入居者さんが入居され、スタッフ支援の下、定期的に家人、友人との手紙のやりとりをされています。また、年賀状は書ける方はスタッフ支援の下、書いて出されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱のある方には貼り紙をしたり、テーブルクロスは無地に替えるなど、混乱しないよう配慮している。日差しについては、入居者さんの希望をこまめに取り入れ、小まめなよしず、電気の調節をしている。又、季節のお花は常に絶やさず、季節の野菜や果物も飾ったりしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆったりとした思いで、一人一人が自分の好きな時間を過ごせるようソファを用意しており、そこでくつろがれる姿をよく見かけます。又、皆で楽しめる時間も日々の中に用意しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者さん、家族が希望する私物があれば、スタッフと相談しながら、できる限り設置しています。どんぐりの家の都合で一方向的に断ったことは一度もありません。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	マットレス使用、手すりの追加、リクライニング車椅子の購入、カレンダーの見直し等々、他にも入居者さんの認知レベルに合わせた居室空間、フロアの整備に努めています。		